東高岡保育所における自己点検及び自己評価

期間（令和７年８月～11月）

評価基準

A.よくできている　B.ほぼできている　C.努力が必要

評価方法　【A:3　B:2　C:1 と換算して平均を出した。】

常勤・非常勤の全保育士から提出された上記期間の自己評価票を集計し、それを施設の評価とした。

No. ①

①保育の理念・保育観		評価	内訳		
			A	B	C
1-1	あなたは、すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重していますか。	3.0	16	1	0
1-2	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障することが、保育園の重要な使命だと理解していますか。	3.0	17	0	0
1-3	あなたの保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識していますか。	3.0	17	0	0
1-4	あなたは、保育所保育または養護と教育が一体となって行われている。ということを認識していますか。	3.0	14	3	0
1-5	子どもの性差や個人差にも留意しながら、固定的な性別役割分業意識を植え付けることのないように配慮していますか。	2.9	14	3	0
1-6	あなたは、日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにしていますか。	3.0	16	1	0
1-7	育児の考え方について、保護者とあなたとが食い違っているとき、先ず相手の気持ちを受けとめ、話し合い、その保護者の立場や考え方を理解するよう努めていますか。	3.0	15	1	1
1-8	子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今、その子に何が必要かを見極め、それぞれにとって適切な援助をしていますか。	2.9	12	4	0

②保育の内容 1）保育計画・指導計画		評価	内訳		
			A	B	C
2-1	あなたは、保育園の方針である保育計画をもとにして、指導計画を作成していますか。	2.6	12	8	0
2-2	保育には指導計画(年・月・週案など)の作成という、あらかじめ見通しをもった計画性が必要だと思いますか。	2.8	17	3	0
2-3	あなたの月・週案などには、教育的側面(五領域の視点)だけではなく、養護的側面(基礎的事項)もしっかり盛り込まれていますか。	2.6	13	7	0
2-4	子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週案などを作成していますか。	2.6	13	7	0
2-5	複数担任の場合、よく話し合ってお互いの考えを十分に理解した上で、月週案などを立てていますか。	2.7	16	3	1
2-6	園の保育理念や方針・目標、あなたの作成した年・月・週案などのねらいや内容を、保護者にわかるように説明できますか。	2.4	10	9	1
2-7	月1回以上・自分自身の指導計画の点検・評価を行い、その結果を次の指導計画に生かしてしますか。	2.5	11	8	1

No. ②

◆乳児保育

		評価	内訳		
			A	B	C
2-8	あなたは、一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景も理解していますか。	2.8	12	3	0
2-9	哺乳瓶の消毒、調乳、沐浴の仕方など基本的な事柄や子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員相互で話し合っていますか。	3.0	15	0	0
2-10	授乳について、その子が欲しがる時にやさしく抱いて微笑みかけ、ゆったりと飲ませていますか。	2.9	14	1	0
2-11	離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの育ち具合やその日の体調に合うよう工夫していますか。	2.8	13	1	1
2-12	おむつ交換は、「きもちいいね」などとやさしく声をかけたり、マッサージししたりして、排便の回数、便性を把握して臀部を清拭していますか。	3.0	15	0	0
2-13	赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受け止め、ほほえみ、要求に応じる言葉をやさしく返していますか。	2.9	14	1	0
2-14	絵本を見せながら、その子の指さすものに答えたり、やさし言葉を添えたりしてあなた自らもそのやり取りを楽しむことができますか。	3.0	15	0	0
2-15	あなたは、自分の服装の色合い、頭髪・爪などの清潔や、室内の清潔にも配慮していますか。	3.0	15	0	0
2-16	寝返りができない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢、かけぶとん、呼吸等の確認をしていますか。	2.9	14	1	0
2-17	一人ひとりの生活リズムや欲求、その日の体調を把握した上で、睡眠の時間を調節したりする柔軟性を持ち合わせていますか。	2.9	14	1	0
2-18	連絡ノートを活用するなどして、保育園以外での子どもの様子も把握するように努めていますか。	2.9	14	1	0

◆３歳未満児保育（1・2歳児保育）

		評価	内訳		
			A	B	C
2-8	探索活動が十分行えるよう、安全によく気を配りつつ、環境を整えたうで、子どもが要求する行動を容認できますか。	3.0	15	0	0
2-9	着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けやことばかけをしながら、時間を要しても自分からしようとする気持ちを大切にしていますか。	2.9	14	1	0
2-10	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気で食事ができることを第一に考えていますか。	2.9	14	1	0
2-11	子どもがおもちやの取り合いなどでぶっかり合うとき、危険のないよう配慮しつつ、子どもの発達の程度や心の動きを考えながら、しばらく見守ることができますか。	2.9	14	1	0
2-12	「おや、何だろ?」、「これで遊ぼう」と好奇心や興味を引き起こす教材や素材、場を用意する心配りをしていますか。	2.9	13	2	0
2-13	散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物などを見つけたたりして、子どもとともに自然物や動物への興味・関心・をもっことを大切にしていますか。	3.0	15	0	0
2-14	子どもと会話をするときに、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感していますか。	3.0	15	0	0
2-15	あなたは、自分の表情に配慮しながら、子どもにわかるように、ゆっくり、はっきり、おだやかに、具体的な短い言葉で語りかけていますか。	2.9	14	1	0
2-16	子どもに「絵本読んで」、「遊んで」と言われた時に、場面に応じて「待って」と言った場合にも、その理由を伝え、その子の気持ちに応えていますか。	2.9	13	2	0
2-17	自分の思いどおりにならず、おこったり泣いたりする子どもに対して、丁寧に話してきかせたり、気持ちを切り替える時間をとり、ゆったりと待つことができますか。	2.8	12	3	0

No. ③

◆３歳以上児保育

ア基礎的事項		評価	内訳		
			A	B	C
2-8	あなたは、子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係をつくる努力をしていますか。	2.8	4	1	0
2-9	子どもが自己表現できるように、その時どきの要求や気持ちを読み取り、どの子も自分が愛されていると実感できるように接していますか。	3.0	5	0	0
2-10	少しでもふだんと違う具合の悪そうな子どもに気づいたら、自分から体の不調を訴えられるように、やさしく問いかけていますか。	3.0	5	0	0
2-11	日常の生活でのしぐさをよく観察して、行動や身体の異常などの早期発見に努めていますか。	3.0	5	0	0
2-12	季節感を味わえる環境を整えたり、心地良い音楽を流すなど、なごやかにくつろいで過ごせる室内の環境づくりを心がけていますか。	3.0	5	0	0

イ健康		評価	内訳		
			A	B	C
2-13	あなたは、「食育」の考え方を大切にし、食事を「楽しく・おいしく」味わえるように、テーブルの配置や飾りつけなども工夫していますか。	2.8	4	1	0
2-14	給食のメニューやレシピ、食に関する情報を保護者に知らせるなど、発育期にある子どもの食事の大切さに関心をもってもらう努力をしていますか。	2.5	3	2	0
2-15	天気の具合や活動内容・程度に応じて、衣服の着脱、調節を子ども自らが考えられるように言葉をかけていますか。	3.0	5	0	0
2-16	トイレに行くことをせかせたり、強制したりせずに、一人ひとりの排泄の欲求に合わせるようにしていますか。	3.0	5	0	0
2-17	おもらしをしたり、排泄の後始末がうまくいかなかったりしても、さりげなく対応し、自分でできるように個別の指導がなされていますか。	3.0	5	0	0
2-18	清潔でいることは気持ちよいことと子どもが知るために、手洗い場、トイレなどをいつもきれいにしていますか。	3.0	5	0	0
2-19	子どもがいろいろいな楽しさを味わうため、散歩など戸外に出かける機会を積極的に多く取り入れていますか。	3.0	5	0	0
2-20	子どもが外で十分に体を動かして遊びに興ずることができるように、日頃から園庭や固定遊具の整備をしていますか。	2.8	4	1	0

ウ. 人間関係		評価	内訳		
			A	B	C
2-21	「保育園の先生が好きだ」といった幸福感を味わえるために、子どもが充実できる活動や場を日頃から用意していますか。	3.0	5	0	0
2-22	あなたは、子どもが嬉しい時や悲しい時、また困ったり戸惑ったりした時に、それを伝えたい存在となっていますか。	2.8	4	1	0
2-23	自己を表現する力や相手の言うことをきく姿勢がもてるよう、あなたはそれぞれの子どもの立場や気持ちをくみ取った仲立ちをしていますか。	3.0	5	0	0
2-24	あなたは、その子の発達の段階を理解して働きかけながら、子どもがきまり約束の大切さに気づき、それを守ろうとする態度を養うように努めていますか。	3.0	5	0	0
2-25	遊びの中で子どもたち自らが試行錯誤しながらつくっていくルールを、大切に見守ることができますか。	3.0	5	0	0
2-26	子どもたちのけんかやぶつかり合いを、友だちを知る機会や、社会性が育つ過程として受けとめ、その育ちを見守ることができますか。	3.0	5	0	0

No. ④

◆特別な配慮や支援を必要とする子ども（障がい児）の保育

		評価	内訳		
			A	B	C
3-1	保育園は、障がいをもつ子もそうでない子も「共生」「共育」の観点から、当た前のこととして保育するという考え方にあなたは共感しますか。	2.9	16	1	0
3-2	障がい児が入園した時、安全管理や個別的対応などその子を受け入れるための保育を、積極的に進めようと考えていますか。	2.9	17	0	0
3-3	あなたは、障がい児もそうでない子も互いのよさを感じとり、楽しく交流できる雰囲気づくりに励んでいますか。	2.9	17	3	0
3-4	あなたは園でのケース会議で積極的に議論することにより、園内の障がい児への理解を深めるよう努力していますか。	2.8	14	11	0
3-5	あなたは、障がい児により適切な保育をするために、様々な専門機関等と連携をしていますか。	2.4	14	11	1
3-6	障がい児の保護者が、様々な苦しみや悩みを抱えてきていることを、触れ合うなかで感じることがありましたか。	2.8	16	5	0
3-7	日常的に障がい児の保護者との話し合いの場等を設けて、不安や焦り等悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心がけていますか。	2.9	17	3	0
3-8	就学に向けて相談する障がい児の保護者に対して、保護者が自分で方向を決めてへいけるように相談に応じたり、情報提供をしたりしていますか。	2.6	11	9	0
3-9	障がい児保育をより豊かなものにするために、子どもたちにふさわしい環境・物的環境(遊具等)を整えるなどの努力をしていますか。	2.8	16	4	0

③行事

		評価	内訳		
			A	B	C
3-10	「行事」を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味をもっことを意識していますか。	3.0	20	0	0
3-11	みんなで楽しむとともに、一人ひとりが十分に自分の力を発揮できるような「行事」となっていますか。	3.0	19	1	0
3-12	子ども達が期待をもって「行事」に参加できるよう、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意していますか。	3.0	19	1	0
3-13	「行事」に参加することを嫌がる子どもには、その気持ちをくみ取って、行事の中でその子が活動できる場面を用意していますか。	3.0	19	1	0
3-14	「保育参観」のときには、保護者の評価にあまりとらわれず、日常の子どものありのままを見てもらう気持ちのゆとりをもっていますか。	3.0	19	1	0
3-15	あなたは「行事」が、子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の保育の積み重ねの結果となるよう心がけていますか。	2.9	18	2	0
3-16	保護者や地域住民にも参加してもらうような「行事」については、園だよりや広報紙等で事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請していますか。	2.9	18	2	0

④保育園の職務役割分担

		評価	内訳		
			A	B	C
4-1	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問をしたり意見を言ったりできますか。	2.8	16	4	0
4-2	登園を嫌がることが続くなど、問題を感じたとき、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策のしかたを相談していますか。	3.0	19	1	0
4-3	あなたは、職員会議で必要と思う質問や意見をはっきり発言することができますか。	2.5	10	10	0
4-4	調理師など保育士以外の職種の人たちが保育にかかわるとき、その人たちへの気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としてのあなたの役割が何であるか理解していますか。	2.9	18	2	0
4-5	あなたは、欠勤した日の出来事や連絡・注意事項は、自分から訪ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか。	2.9	18	2	0
4-6	あなたの本来の業務以外に保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって引き受けていますか。	3.0	20	0	0

人権擁護のためのセルフチェックリスト　～子どもを尊重する保育のために～（結果報告）

社会福祉法人公成福祉会　　東高岡保育所

期間（令和 7 年 8 月～11月）　　対象者：職員20名

（1）子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり

No.	一日の流れ	「良くない」と 考えられるかかわり	チェック欄	結果	より良いかかわりへの ポイント
1	登園時	朝、母親に抱かれて、なかなか離れられない子ども に「ずっと抱っこしてもらっていると恥ずかしいよ」と 言葉をかける。	□していない □している（したことがある）	20 0	「恥ずかしい」という表現は、大人の価値観の押しつけになる可能性があります。たとえば、「お母さんの抱っ こって嬉しいね」等、子どもの 気持ちを受け止め、子どもが好 きな遊びに誘うなどして気持ち を切り替えられるよう働きかけ ると良いでしょう。
2	日中	製作活動で子どもが描いた作品をみて、「そこ違うよ。もう一枚描いてみる？」と だけ言って、描きなおすように働きかけた。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもが自ら描いた作品を否定するのではなく、子どもの自由な発想を認めるかかわりをしましょう。
3		排泄の失敗への対応をその場で行ったり、周囲に知らせたり、その失敗を責める言葉がけをする。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもの羞恥心や傷ついた気持ちに配慮し、トイレ等の人目につかない場所で、「着替えをしたら気持ちよくなるからね」等と声をかけて対応しましょう。
4		子どもが、友だちをたた く等、良くないことをした際に、執拗に責めるような言葉がけをする。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもが良くないことをした際、それを子どもに伝えること、状況を理解するための言葉かけは大切ですが、必要以上に責めるべきではありません。
5		子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後 にして」と言う。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもが話そうとするときは、できるだけ耳を傾けましょ う。また、すぐに対応できない 状況であった場合には、後で必ず「さっきは何だった？すぐに聞けなくてごめんね。」と聞くようにしましょう。『先生に話を聞 いてもらえて嬉しい、また話したい』と子どもが感じることが、信頼関係の構築につながります。
6		苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行って。」と 言ったり、他者と比較したりなど、否定的な言葉がけをする。	□していない □している（したことがある）	20 0	保育者が子どもの頑張ろうと いう気持ちを置き去りにした発言をすると、子どもは自分を否定されていると感じます。自己肯定感を育む言葉がけをしま しょう。
7	昼食時	食事の際、こぼす等の理由で、テーブルに給食のメ ニューをすべて配膳せず、食べたら次のおかずをあげる。または、こぼすたびに叱りながら食べさせる。	□していない □している（したことがある）	20 0	食への関心・意欲を育むためには、すべての献立を配膳し、子ども自身が好む順番で食べら れる環境を設定することが必要です。また、こぼす、こぼさないに着目するのではなく、食べる意欲を育む環境づくりに努め ましょう。
8	降園時	お迎えに来た保護者に「A君は、今日はケンカをしてお友だちを泣かせてしまいました」と、他の保護者にも聞こえるように言う。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもの自尊心を傷つける行為です。また、保護者が気まずい思いをしないよう、配慮が必要です。トラブルや困りごとを成 長段階としてとらえ、親子にとって、相手の気持ちを理解する事や物事の良し悪しを学ぶ機会と なるようにかかわりましょう。
9	その他	子ども同士のトラブルが起きたとき、子どもたちの言い分を聞かず、一方的に判断を下す。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもそれぞれに理由があって、トラブルは起こっています。トラブルも子どもにとって は貴重な経験です。保育者の一 方的な考えで判断をするのでは なく、双方の言い分を聞き、お互いが納得する解決へと導きま しょう。
10	その他	自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。	□していない □している（したことがある）	19 1	自分の感覚で排泄を知らせることができる子どもに、保育者の都合で強制的に排泄を促すこ とは、子どもの自主的な行動の妨げになります。子どもが自ら排泄を訴えることができる配慮 をしましょう。

人権擁護のためのセルフチェックリスト　～子どもを尊重する保育のために～（結果報告）

社会福祉法人公成福祉会　東高岡保育所

期間（令和 7 年 8 月～11月）　　対象者：職員20名

（1）子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり

No.	一日の流れ	「良くない」と 考えられるかかわり	チェック欄	結果	より良いかかわりへの ポイント
1	登園時	朝、母親に抱かれて、なかなか離れられない子ども に「ずっと抱っこしてもらっていると恥ずかしいよ」と 言葉をかける。	□していない □している（したことがある）	20 0	「恥ずかしい」という表現は、大人の価値観の押しつけになる可能性があります。たとえば、「お母さんの抱っ こって嬉しいね」等、子どもの 気持ちを受け止め、子どもが好 きな遊びに誘うなどして気持ち を切り替えられるよう働きかけ ると良いでしょう。
2	日中	製作活動で子どもが描いた作品をみて、「そこ違うよ。もう一枚描いてみる？」と だけ言って、描きなおすように働きかけた。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもが自ら描いた作品を否定するのではなく、子どもの自由な発想を認めるかかわりをしましょう。
3		排泄の失敗への対応をその場で行ったり、周囲に知らせたり、その失敗を責める言葉がけをする。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもの羞恥心や傷ついた気持ちに配慮し、トイレ等の人目につかない場所で、「着替えをしたら気持ちよくなるからね」等と声をかけて対応しましょう。
4		子どもが、友だちをたた く等、良くないことをした際に、執拗に責めるような言葉がけをする。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもが良くないことをした際、それを子どもに伝えること、状況を理解するための言葉かけは大切ですが、必要以上に責めるべきではありません。
5		子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後 にして」と言う。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもが話そうとするときは、できるだけ耳を傾けましょ う。また、すぐに対応できない 状況であった場合には、後で必ず「さっきは何だった？すぐに聞けなくてごめんね。」と聞くようにしましょう。『先生に話を聞 いてもらえて嬉しい、また話したい』と子どもが感じることが、信頼関係の構築につながります。
6		苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行って。」と 言ったり、他者と比較したりなど、否定的な言葉がけをする。	□していない □している（したことがある）	20 0	保育者が子どもの頑張ろうと いう気持ちを置き去りにした発言をすると、子どもは自分を否定されていると感じます。自己肯定感を育む言葉がけをしま しょう。
7	昼食時	食事の際、こぼす等の理由で、テーブルに給食のメ ニューをすべて配膳せず、食べたら次のおかずをあげる。または、こぼすたびに叱りながら食べさせる。	□していない □している（したことがある）	20 0	食への関心・意欲を育むためには、すべての献立を配膳し、子ども自身が好む順番で食べら れる環境を設定することが必要です。また、こぼす、こぼさないに着目するのではなく、食べる意欲を育む環境づくりに努め ましょう。
8	降園時	お迎えに来た保護者に「A君は、今日はケンカをしてお友だちを泣かせてしまいました」と、他の保護者にも聞こえるように言う。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもの自尊心を傷つける行為です。また、保護者が気まずい思いをしないよう、配慮が必要です。トラブルや困りごとを成 長段階としてとらえ、親子にとって、相手の気持ちを理解する事や物事の良し悪しを学ぶ機会と なるようにかかわりましょう。
9	その他	子ども同士のトラブルが起きたとき、子どもたちの言い分を聞かず、一方的に判断を下す。	□していない □している（したことがある）	20 0	子どもそれぞれに理由があって、トラブルは起こっています。トラブルも子どもにとって は貴重な経験です。保育者の一 方的な考えで判断をするのでは なく、双方の言い分を聞き、お互いが納得する解決へと導きま しょう。
10	その他	自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。	□していない □している（したことがある）	19 1	自分の感覚で排泄を知らせることができる子どもに、保育者の都合で強制的に排泄を促すこ とは、子どもの自主的な行動の妨げになります。子どもが自ら排泄を訴えることができる配慮 をしましょう。

(2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ

No.	一日の流れ	「良くない」と 考えられるかかわり	チェック欄	結果	より良いかかわりへの ポイント
1	日中	集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇 しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。	□していない □している (したことがある)	20 0	「〇〇しないなら〇〇できな い」との言葉がけは、子どもた ちに行動を強要するかかわり（脅し）です。子どもたちが自分自身で考え、行動する力を育 むことができるよう、肯定的な言葉がけをして子どものやる気 を育てていきましょう。
2	昼食時	ごはんをこぼした子どもに対して、床に落としたものを拾って食べるように促す。またほかの子どもが大勢いる前でそのことを指摘する。	□していない □している (したことがある)	20 0	衛生的でなく、大人は決してしないことを子どもに強要するべきではありません。また、ほかの子どもが大勢い る前での指摘は、「この子はいつもこぼしている」との先入観を 子どもたちに持たせることにつ ながります。 子どもたちが互いに尊重する心が育つよう、配慮しましょう。
3	午睡時	なかなか寝つけずにいる子に「早く寝てよ。あなたが寝ないと仕事が出来ないんだよね」言う。	□していない □している (したことがある)	20 0	自分の仕事を優先して考えるのではなく、子どもの気持ちやその日の状況に配慮したかかわりをしましょう。
4	午睡時	寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。	□していない □している (したことがある)	19 1	午睡中に話をすることが他の子どもに迷惑であること、身体を休めることの大切さを伝え、子どもが納得して行動できるよう言葉がけをしましょう。
5	その他	どなったり、「〇〇しなさ い」との言葉や子どもが怖 がるもの（鬼等）を使った りして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとする。	□していない □している (したことがある)	19 1	子どもに恐怖心を与えて、保育者の指示に従わせるのではな く、子どもが自ら行動できるような言葉がけを心がけましょ う。

(3) 罰を与える・乱暴なかかわり

1	日中	子どもの人数チェックをする際、子どもの頭を手ではたくようにして人数を数える。	□していない □している (したことがある)	20 0	子どもによっては、頭を叩かれたと感じることもあります。 人数をチェックする際も、一人ひとりの顔を見ながら、丁寧にかかわりましょう。
2		並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待てず、腕を掴んで引っ張る。	□していない □している (したことがある)	20 0	大人が子どもの腕を引っ張る と、脱臼等のけがをする恐れが あります。丁寧な言葉がけで、子どもが納得して自ら行動でき るよう配慮しましょう。
3		子どもを注意する際に、「だめよ！」と言って子ども の手を叩く。	□していない □している (したことがある)	20 0	叩くという行為は虐待です。また、保育者の「叩く」という行動を子どもが真似てしまうこともあります。暴力的な行動によって指示に従わせることはやめましょう。
4	午睡時	なかなか眠らない子どもに布団を頭からかぶせるなどして強引に押さえつけ、パンパンと強く布団を叩く。	□していない □している (したことがある)	20 0	布団を頭からかぶせる行為は 子どもに恐怖心を与え、窒息の危険性もあります。また、強く叩いても、子どもは眠ることができません。子どもにそっと手 を添えたり、ゆったりとリズムを刻むなど、子どもが安心でき るかかわりをしましょう。
5	その他	保育者が子どもに注意を したが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与える。	□していない □している (したことがある)	20 0	保育者の言うことを聞かない 等の理由で罰を与えることは、 虐待です。子どもたちが見通し を持って行動できるよう、具体 的で分かりやすい言葉がけをしましょう。

(4) 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり

No.	一日の流れ	「良くない」と 考えられるかかわり	チェック欄	結果	より良いかかわりへの ポイント
1	降園時	いつも時間ぎりぎりのお迎えになる子どもに対して、「〇〇ちゃんのお母さん、今 日も遅いね」と言う。	□していない □している (したことがある)	19 1	子どもは口には出さなくても、最後のお迎えになることを耐えている場合が多くあります。「大丈夫だよ、先生と一緒に待っていよう ね」等、子どもの気持ちに寄り添った、温かい言葉がけをしましょう。
2	その他	登園が遅い、服が汚れている、お風呂に入っていない、提出物の遅れ等の際に、子ど もに「また〇〇君のお母さん忘れたの。いつも忘れて困るね。」や「昨日お風呂に入れてもらわなかったの。」など否定的な言葉がけをする。	□していない □している (したことがある)	20 0	子どもや家庭の置かれている現状はさまざまです。保護者を否定されることで、子どもは自身の存在も否定されている気持ちになります。保護者を否定するようなことは、子どもに対して伝えないようにしましょう。
3		いつもぎりぎりの時間にお迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりする。	□していない □している (したことがある)	20 0	保護者への支援も、保育者の 業務の一つです。保護者に対して、 否定的な言葉がけをするべきではありません。一人ひとりの保護者の状況をふまえ、保護者の養育力の向上につながるようなかかわりを心がけましょう。
4		「お休みの日にどこに行ったかお話して」との問いかけについて、クラスの子どもたち『全員』に発表してもらう。	□していない □している (したことがある)	19 1	子どもたちの家庭の経済状況や環境の違いを理解し、子どもの気持ちに配慮した問いかけを心がけましょう。

(5) 差別的なかかわり

1	登園時	挨拶をしてきたか否かにかかわらず、特定の子どもにだけ「おはよう」と言葉がけをする。	□していない □している (したことがある)	20 0	特定の子どもだけに挨拶をするのではなく、どの子どもに対 しても、一人ひとり顔をみて挨拶しましょう。また、登園時は視診の時間であることも意識し ましょう。
2	日中	いつまでも泣いている男 の子に、「男の子だからいつ までも泣かない」や、乱暴 な言葉使いをする女の子に 「女の子だからそんな言葉を 使ったらいけない」と注意 する。	□していない □している (したことがある)	20 0	性別を理由に注意することは、差別的なかかわりです。一人ひ とりの違いを認め、かかわりま しょう。
3	昼食時	少食の子に対して、子ど もの意見を聞かず、初めか ら非常に量を少なくして配 膳する。	□していない □している (したことがある)	20 0	子どもの意見を聞かず、給食 の量を「初めから極端に減らす」 ことは、子どもの思いを無視した行為です。子どもが、「少なくして欲しい」と自分の思いを発 せられるようにかかわることが大切です。
4	午睡時	寝かしつける際に、いつ も同じ子どものそばにばかりつく。	□していない □している (したことがある)	20 0	特定の子どもばかりを極端にひいきすることは、差別的なかかわりです。 子ども一人ひとりの背景や思 いに配慮しつつ、平等に対応することも必要です。
5	その他	クラス全員で帰りの支度 をしている時に、なかなかできない子どもに、「〇〇ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」 と言う。	□していない □している (したことがある)	20 0	子どもの心を傷つける言葉づ かいは、子どもの人格を否定する行為です。また、他の子どもたちの前での保育者の悪意ある発言は、子ども同士の「いじめ」 につながることもあります。